

セカンド ステージ

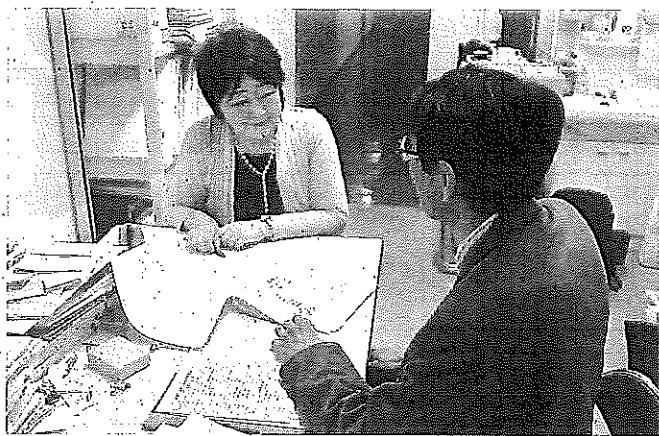
栃木県日光市の大島哲子さん（66）は30年以上勤めた生命保険会社を退職し、2014年に作新学院大学（同県宇都宮市）人間文化学部に入学した。卒業論文も書き終え、今春の卒業を待つばかりだ。

高校卒業後に就職。営業職として働く中で人間心理学に興味を持ち、「学問としての心理学を勉強したいと思った」とが進学のきっかけだった。インターネットで情報を集め、オープニキャンパスにも足を運んで作新学院大を選んだ。

母親の介護もあり、たために家族に理解を求めていたが、20歳前後の若者に囲まれての授業は「なんじむのに苦労し

仕事や子育てが一段落してふと考える。「もう一度ちゃんと勉強したい」。大学や大学院への入学はハードルが高そうだが、シニア層の受け入れに積極的な大学は増えている。学費などの支援策も充実してきた。

働く中で得た興味 大学でもう一度



セミの教授に指導を受ける大島哲子さん(6日、作新学院大学)

シニア入試心得の5カ条

- 論理的文章を書く練習を
 - 周囲の理解を得てから入学
 - 若者には「教わる」姿勢で
 - 学費補助のリサーチは事前に
 - 迷ったらオープンキャンパスで雰囲気を知る

50代からの キャンパスライフ

姿勢が大事」と振り返る。だが、1年もたつと仲の良い友人もできだ。「謙虚な態度で何でも吸収しようとする」が、1年もたつと仲の良い友人もできだ。18歳人口の減少などを背景に、社会人に門戸を開く大学は増えている。「受験勉強が大変」と困り込んでしまうが、入試科目を直接や小論文に絞っている大学が多い。

国立大で早くから「シンアカデミー」を設けているのが大島大。01年度に導入した「フェニックス入学制度」は50歳(一部は60歳)以上が対象。文学部や総合科学部など計6学部に毎年10人程度が入学している。仕事を続けながらでも通学しやすいよう、通常の修

業年数を超えて履修して卒業できる「長期履修制度」も用意した。4年間の学費で最大8年間大学に在籍することができる。

文部科学省によると、入学初年度に必要な学費は国立で約82万円、私立で約31万円。老後への蓄えを考えれば決して安いとは言えないがたい。金銭面のサポートを設ける大学もある。

大阪商業大学（大阪府東大阪市）では、55歳以上を対象に「年齢×1万円」（最大74万円）を授業料から割り引く。作新学院大も55歳以上は人学金と授業料が半額。同大によると、現在約10人が制度を利用している。担当者は「もう少し多く

入試対策 小論文の練習必要

学びへの意欲はあっても、若い頃のように「徹夜で受験勉強」というわけにはいかない。シニア層はどのような準備をすればよいのか。社会人入試に詳しい専門家にポイントを聞いた。

選抜方法の多くは直接と小論文。進学を目指す社会人などを教える「キズキ共育塾」の半村謹講師は、「論理的な文章を書く練習が必要。大学院などを経験した人に

くのニアに利用してほしい」と話す。よし専門的に学びたいのではなく、大学院に進学する選択肢もある。東京経済大学国分寺市)の「ニア大学院制度」は52歳以上の学士資格を持つ人が対象。2年だけでなく、3年かけて修了することも認めることとした。

同大の大学院博士後期課程学生ぶ大島昌子さん(65)は、管理職向けのゼミナード講師を務めながら、「ニケーション学」を研究する。「学びたいという意気込みは、何歳になつても一緒。かく年度から仕事も減らして研究に打ち込みたい」と語った。(玉川宏隆)